

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	ぶんきょう多文化ねっと	作成日	2025年 3月10日
事業名	多文化コミュニティプロジェクト「にはんご交流inぶんきょう」		
協働団体	文京区アカデミー推進課 文京区社会福祉協議会・フミコム 区内外国人関連機関 区内伝統工芸・日本文化等の専門家個人・団体、町会等 東京大学グローバル教育センター 区内企業（社会貢献に関心のある企業） 区内大学（ボランティア・地域連携関連部署）		
自団体及び協働団体の役割分担	自団体： ■ぶんきょう多文化ねっと：総合企画・コーディネート 区内ボランティア日本語教室：交流事業の企画実施協力、外国人への広報、ボランティア体験希望者の受け入れ 協働団体： ■文京区アカデミー推進課：住民への広報・事業周知、外国人住民への呼びかけ広報、場所の確保提供、事業実施のサポート ■文京区社会福祉協議会・フミコム：事業展開のアドバイス、協働が考えられる機関、人材の紹介・区内大学や区内企業とのつなぎ・連携ハブ機能 ■区内外国人関連機関：事業実施の協力、外国人への広報 ■区内伝統工芸・日本文化等の専門家個人・団体、町会等：日本文化体験交流の会への協力、交流事業の実施協力、住民参加へのつなぎ役 ■東京大学グローバル教育センター：留学生交流のサポート、講座への講師派遣 ■区内企業（社会貢献に関心のある企業）：企業ボランティアと日本で働きたい外国人との交流事業協力 ■区内大学（ボランティア・地域連携関連部署）：外国人交流事業に興味のある学生への広報等協力		
提案背景・目的	背景と現状： 2025年1月1日現在、文京区の外国人人口は15,923人(対総人口比 6.77% 2024年1月より1,887人増加)、過去10年間で2倍に急増している。彼らの在留目的は就労、留学、家族滞在等多岐にわたり、どのカテゴリーでも増加し、区内の教育機関や保育施設でも日本人住民との共住が急ピッチで進んでいる。 コロナ禍では、社会福祉協議会に、生活支援を求める在住外国人からの問い合わせも複数あり、比較的恵まれていると言われてきた文京区でも多様な層の外国人が在住する状況も見えた。日本での生活を営む上で、在住在学在勤の外国人のニーズは、年齢や在留状況、期間、経済状況により異なる。そんな中でも、彼ら彼女らからは共通して日本人住民との接点、交流を求める声が多い。同時に日本語を習得したいという希望が行政にも、地域日本語ボランティア教室に多く寄せられている。 これまで文京区内では、日本語交流支援は区内で自発的に活動する日本語ボランティア教室が受入れ先となっていた。しかし、担い手の高齢化や就労層の共働き傾向の進行等により、交流支援活動の担い手が不足し、次世代の人材発掘・育成が大きな課題となっている。この傾向はコロナ禍を経て急速に深刻となり、日本語での交流を希望する外国人に対応しきれていない状況が続いている。 一方で日本人住民側からは、外国人の増加を感じながらも、同じ地域に住む外国人の状況やニーズなどについて知る機会が少なく、関わるきっかけを持ちにくいという意見を聞くことがある。		
事業内容	本事業の目的： 上記の背景と現状から、本事業では、在住在学の外国人との交流、日本語を話す機会を持つことにより、お互いの理解を促進し、多文化地域社会を作っていくことを目指したい。地域の活動として、単発でなく継続的な交流・支援の環境整備が必要である。日本語交流の機会や、研修を行うことにより、外国人への直接的な交流、日本語交流支援になると同時に、 ①身近に住む者同士として交流支援に携わる人材の掘り起こし・育成 ②町会など地域コミュニティでの相互理解をすすめるような交流の機会づくりをしていきたい。		
	A. 在住在学外国人との日本語交流・連携 日本語で交流することにより 常に下記を意識して事業を実施した。 ■まず知り合い、異なる国籍であっても同じ地域で一緒に暮らしていくことへの抵抗感を軽減し、相互理解を進める。 ■日本語を話す機会を増やし、日本での生活をより良くするためのサポートをする。		
	1.日本文化を知る＆日本語交流会（3回） ①日本文化を知る＆日本語交流会（江戸木版画・うちわ作り） 文京区内で伝承される伝統文化を紹介、体験した。外国人と日本人が一緒に体験しながら日本語で交流することを通じて相互理解を促した。 実施日：2025年7月7日(日) 講師：高橋由貴子氏(江戸木版画 高橋工房) 申込：41人(外国人38人 日本人3人) 当日参加者 外国人35人 ボランティア11人 ②日本文化を知る＆日本語交流会（和菓子づくり） 文京区の日本文化を知る機会第2弾として、区内和菓子職人である講師から和菓子作りを学び、体験。 抹茶と和菓子を食しながら日本語交流を楽しむ機会とした。 実施日：2025年1月19日(日) 指導：栗田 洋氏 (喜久月) 申込：40人 当日参加者：外国人24人 ボランティア12人 ③日本文化を知る＆日本語交流会(交流忘年会 企画：日本語交流員の会) 区内日本語ボランティア団体が中心となり企画。企業の場所提供的協力を得て、軽食を楽しみながら外国人、日本人が日本語交流を楽しんだ。 家族ぐるみの参加や、区内企業ボランティア、今年度のB事業のセミナー受講者からの参加もあり、地域ならではの大交流会となった。 また外国籍の方が自ら母国の伝統文化を披露してくださる提案があり、双方向の文化交流となった。 実施日：2024年12月7日(土) 18:00-20:00 場所：株式会社シード 本社 参加者：外国人 約50人 (中国・台湾・アメリカ・フランス・ネパール・タイ・ミャンマー・インド・インドネシア・オランダなど12か国) 日本語ボランティア教室参加者、企業人ボランティア、その他一般申込者、関係者など 約50人 合計約100人		

<p>事業内容</p> <p><u>2.B-NICEプログラム 企業社会人＆留学生交流会（区内企業と連携 共催：東大留学生支援室）</u> 地域社会貢献を考える区内企業との連携プログラム。日本で働きたい留学生は、日本人社会人との交流、話を聞きたいニーズが高い。 企業ボランティアと留学生との1対1 日本語交流プログラム。双方の参加希望者を受付け、顔合わせを実施、その後は個々の交流が展開された。 (身近な観光スポット訪問、季節行事(正月等)の紹介、家族含めての食事、就職活動の相談、留学生の母国紹介の談話など) 交流期間の後半（1/27）に全体交流＆報告会を実施した。 趣味のパフォーマンスの披露もあり、更に交流を深めた。 幅広い年代の交流と日本社会の理解の機会となり、気軽にできる「日本語での交流」を体験することで、外国人に関わるボランティアに対するハードルが下がつたという声があつた。留学生交流を入口に、外国人企業社会人としての外国人支援に関心のある人材を掘り起こすことにも役だった。 定員：企業人ボランティア & 留学生各15人 実際の成立組： 30組 スケジュール：9月募集開始 10/16 顔合わせ会（東大内）20組を顔合わせ 個別顔合わせ（11/30-12/6 6回）10組 10月～2月 個別交流 報告会＆全体交流会 1/27</p> <p><u>3.外国人集住施設と地域住民との交流会『東大国際寮フェスティバル』（企画：東大自白台寮）</u> 文京区の地域の方々と寮の大学生、留学生との交流を目的とした夏祭り企画 近隣の町会や神社等の全面協力により、これまで接点のなかった人たちとの交流の機会のきっかけづくりをした。 実施日：2024年9月28日（日）16:00-20:00 場所：自白台ビレッジ前の広場 協力：自白台雜司ヶ谷町会、高田老松町会、近隣飲食店、神社、着付けサークル（町会員） 参加者：参加家族数： 151家族（事前申込み 99家族 当日参加 52家族） 参加総人数： 352人</p> <p>B. 外国人理解の促進と交流支援環境整備のための人材の発掘と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ■研修会を設定、広く広報することにより、外国籍住民の状況や課題を知る機会づくりをした。セミナー参加を通じ、関心のある人との接点を作り、少人数でもその後の活動へつなげる人材の掘り起こしも意図した。 ■外国籍住民の急増により、文京区内でも小さな摩擦や不信感、不安な声なども聞こえる。これら課題を軽減すべく、外国人理解のための有識者や当事者からの話を聞くセミナーを企画実施した。 <p><u>1.外国人との交流・支援のための研修会（4回）</u> 多文化コミュニティプロジェクトセミナー</p> <p>Part1 「外国语の子どもを地域で見守り育てる」 地域社会の未来の子どもを地域で見守り、育てる支援を参加者とともに考える 講師：栗林知絵子氏（豊島子どもWAKUWAKUネットワーク）受講者：44人（申込57人）</p> <p>Part2 「地域で暮らす外国人とのコミュニケーション」 外国籍の方と隣人同士としてともに暮らし・働き・学ぶ際のポイント、相互理解のコツを学ぶ 講師：新居みどり氏（NPO法人 CINGA理事）受講者：35人（申込42人）</p> <p><u>2.日本語ボランティア体験</u> A事業、B事業の参加者等のうち、日本語交流支援、外国人との継続的接点に関心のある人を対象に既存の日本語ボランティア教室の体験会を実施した。 次年度以降、新たに日本語交流支援の機会に人材をつなげられるよう、今年度は経過的な体験の場とした。（既存教室への継続参加も紹介） 実施日：弥生日本語の会体験 11月12日 シピック日本語木曜日体験 11月7日 ABK日本語くらぶ 随時 各教室5人程度の体験参加</p>	<p>*<u>外国人参加者</u>…日本人の人と一緒に体験できたことが楽しかつた。日本語をたくさん話せた。文京区にこのような活動があることを知らなかつた。次もまた参加したい。案内してほしい。外国人同士の知り合いができた。参加している人がとてもやさしくてうれしかつた。日本語を勉強したい、どこかあつたら教えてほしい。日本の企業で働く人とたくさん話せて、日本社会のことが知れた。日本人の参加者の人たちが優しくてとてもうれしかつた。</p> <p>*<u>日本人参加者</u>…外国人の状況や課題を初めて知った周りで増えているなあとは感じていたがこんなに多くなっていると知ってびっくりした。他人事と思てしまいがちだが、気を付けて考えてみたい。一緒に交流てきてとても楽しかつた。イベントだけでなくて話せることが楽しさを増した。今まで近寄り難く、よくわからなかつたが、施設を開いてくれたことに感謝。同じ地域で行きかうのだから、もっと親しくなりたい。自分たち日本人もなにかイベントで役立てたらと思った。継続して交流の機会がほしい。</p> <p>*<u>企業担当者</u>…企業として場所を提供することで地域の活動に貢献できたことはとても喜ばしい。ニーズが知れてよかつた。交流している人たちが笑顔で帰つた姿を見れたことは企業として意義を実感できた。自社の社員に外国人との交流ボランティアに興味関心がある人がいると思わなかつた。継続的なボランティア活動はなかなか呼かける事が難しかつた。多くの社員が参加したことにより、今後の地域連携の可能性見出す機会となつた。 SDGsに関わる企画を一緒に考えていかれたらと願う。</p> <p>*<u>企業人ボランティア</u>…日本語で外国人と交流できるということで参加ハードルが下がつた。家族も一緒に参加できるボランティアで楽しい。自分の経験（社会人として）が役立ち、思ったよりずっと気軽に交流が楽しめた。外国人理解に役立つた。自社内にも外国人の人人がいるのでその理解にも良い機会だつた。留学生が異国で頑張つてゐる姿を見て、元気をもらつた。</p> <p>*<u>町会等関係者</u>…かねてから懸案だった近隣地域での繋がりの第一歩ができたことはとても喜ばしい。外国人が増えてヘイトイ的な声が心配なところがある。接点を見つけられるような働きかけを今後も希望したい。英語や中国語ができなくても日本語でという考え方はとても勉強になつた。</p> <p>*<u>区（アカデミー推進課）</u>…関係各位の尽力により、課題提出時の想定を超える充実した内容を実施することができた。また、ニーズの高さや事業の効果を実感できただけでなく、担い手不足等の課題について認識できたことも大きな収穫だつたと考える。各方面につながりの第一歩を提供できた1年だつたが、これらを継続・発展させて、次年度のBチャレ事業の取組に活かしていきたい。</p> <p>*<u>大学（東京大学）</u>…コロナ禍後、本学に限らず留学生が特に地域で日本語を話す機会や参加できる教室が減つてゐる。求める問合せは多く今後もこのような機会があることを願う。また、なにか協力できる場面があつたら、積極的に協力したい。</p>
<p>協働団体 or 利用者の声</p>	

協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> * 行政との協働により、場所を安定して確保でき、当事者（外国人）や区民への情報提供が促進された。事業展開において早い時期から日程と場所を確保し、事業を潤滑に進めることの効果を大きかった。 * 区内の伝統文化継承者や菓子職人との協働は、日本文化を知るに留まらず、旅行者でない外国籍住民の地域理解として効果が高かった。 * セミナー実施と、交流事業実施において町会との連携ができた。同じ課題を共有することができ、また広報などにおいて多大な力をいただき次年度以降に他の事業（防災啓発、子どもの支援など）にもつなげられる可能性を見いだせた。 * 企業からは、場所の提供を提案いただくなど、積極的な繋がりが築けた。また、社会福祉協議会がかねてから持っていた区内企業ネットワークにより区内企業複数と協働することで、B-NICEプログラム（企業人ボランティアと留学生との交流）が拡大できた。 * 事業の当日に一緒に運営に従事することや、外国人が「日本語で話す」ことの実践する場（日本語教室）を見学・体験してもらうことで、協働団体の担当者（区・社協・企業）の方々に本課題についてよりよく知つてもらう機会となったと実感している。長く現場で活動してきたものとしてそれぞれのリソースの距離感が縮まることは協働したからこそ嬉しさであり、今後に期待をしている。
成果目標の達成度	<p><u>Aの事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 日本文化を知る＆日本語交流事業…①②③各事業とも多数の参加者を得て、外国人が集うきっかけ、日本人住民と知り合う場所として評価できるものであったと考える。各事業ともに「日本語で交流する事」を前面に出し、単なる単発の交流イベントでなく、地域で日本語で暮らすことの導きにもつながった。 * 企業人ボランティアの参加により実現した日本語交流は、定員の倍以上の申込があり、希望者全員に対応した。企業担当者からは、「企業の社会貢献プログラムとして継続性のある活動は貴重であり、社員の参加希望度が高いことは新たな発見だった」という高評価を受けた。定住性が高い外国人の支援・交流相手として同じ地域での若手・中年層の企業人との可能性を再確認できた。 * 外国人（留学生）の集住施設と地域住民との交流機会…コロナ禍以前から課題であった地域（町会等）で複数のリソースが知り合う機会を作り、相互理解を促すことができた。多様な世代が関わったこと、今後への期待が高かったことは大きな成果だった。 <p><u>Bの事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 一つ一つのセミナー事業を丁寧に実施し、それぞれに当初の予定以上の参加者を得た。区内外国人の急増により課題が浮き彫りになってきている地縁組織や教育現場からの参加者も得て、一緒に考える機会となった。 * セミナー参加者からは、活動への参加に関心を示す区民もあり、日本語ボランティア教室の体験などの機会を提供することにより、その後既存の日本語教室への参加もつながったことからも今年度としての目標は達成できた。 * 都内外で顕著な活動をし、各地域の先導役となっている講師との関係性を作ることができ、次年度以降に本格的に仕掛けていく「人材育成、場所づくり」につながるネットワークを築くことができたことも今年度の成果であった。
今後の活動予定	<p>2024年度に基盤づくりができた事業は定着発展を心掛け、自団体の主たる目標である、①多様なリソースを繋ぎ、日本語交流、地域相互理解の機会を作る、②持続的な日本語支援活動ためのリソース発掘・育成の2点を少しづつでも進めるため、継続して活動していきたい。</p> <p><u>Aの事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 日本文化を知る＆日本語交流事業…2024年度はトライアルとして積極的に事業を展開した。これらの定着・継続を図るため、事業を継続し、更に異なる伝統工芸にも触れられるよう発展させたい。 * 企業人ボランティアと留学生の日本語交流（B-NICE）…2年目は更に他の企業への呼びかけを広げる。また、このプログラムに関心のある他大学にも事業を紹介し波及の可能性をさぐる。 * 2年目は、外国人交流事業を区内に更に広く情報発信できる事業として、外国人自身が発信する企画に取り組みたい。 <p><u>Bの事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 2年目は、現在の第一課題である「日本語ボランティアの人材を発掘し、育成していく」ことを具体的に働きかける。 講座を実施し、既存の日本語教室の体験や他の行事への参加を促す。これにより関心や意欲をつなぎ、次年度に目指す日本語支援の場づくりへとつなげる。 ★ 初年度は、一つ一つの事業を丁寧に実施し、それぞれに当初の予定以上の参加者を得た。2年目は、更にA事業・B事業の相互に関係性を持たせ、参加者が他の事業にも関わって行けるように、本事業全体を通して醸成したいと考える。

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】

E-mail : fumikomu@bunsyakyo.or.jp 問合せ : 03-3812-3044 (担当:近藤・篠崎)

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：ぶんきょう多文化ねっと（ぶんたねっと）

実施内容 / 月					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		幹事ミーティング	日程	場所	4/11 4/16	5/17	6/27	7/5	8/1	9/6	10/22	11/1	12/2 12/10	1/17	2/21	●	
A. 在住・在学外国人との 日本語交流・連携	1	日本文化を知る&日本語交流会 ① (江戸木版画・うちわ作り)	7/7(日) 14:00-16:00	区民センター3A 午前午後	4/11 講師打合せ	申し込み 開始	6/6 締切	7/7									
		日本文化を知る&日本語交流会 ② (和菓子づくり)	1/19(日) 14:00-16:00	アカデミー向丘 実習室									申し込み 開始	12/19 締切	1/19		
		日本文化を知る&日本語交流会 ③ (交流忘年会 企画：日本語交流員の会)	12/7(土) 18:00-20:00	(株)シード内 ラウンジ								申し込み 開始	11月末 締切	12/7			
	2	B-NICCEプログラム 企業社会人&留学生交流会 (区内企業と連携 共催：東大留学生支援室)	10月顔合わせ	10/16東大 1/27スカイホール							募集開始	10/16 顔合わせ	ZOOM追加顔合わせ 交流フォロー	1/27 報告会	交流フォロー		
	3	外国人集住施設と地域住民との交流会 (企画：東大目白台寮 共催：東大留学生支援室)	9/28(土) 16:00-20:00	東大目白台ビレッジ						募集開始	9/28		ふりかえり MTG				
B. 外国人理解の促進と 交流支援環境 整備のための 人材発掘・育成	1	多文化コミュニティプロジェクトセミナー Part1 「外国ルーツの子どもを地域で見守り育てる」	9/2(月) 18:30-20:30	アカデミー文京 学習室				7/25区報	8/25 締切	9/2							
		多文化コミュニティプロジェクトセミナーPart2 「地域で暮らす外国人とのコミュニケーション」	10/9(水) 10:00-12:00	シビックセンター5階 C会議室					8/25 区報	9/27 締切	10/9						
	2	日本語交流支援の場づくり準備会						企業（文化シャッター）・大学（順天堂大）などと意見交換 既存教室ボランティアと意見交換 次年度以降への下地づくり									
		日本語教室でのボランティア体験	①火曜…11/12アカデミー向丘学習室 ②木曜…11/7シビック4F 会議室										11/12 11/7				
	3	交流事業サポーター（大学生等）の募集	実施見送り														
		フミコム/関係課との会議			4/16 対面			7/16 Zoom			10/22 対面		12/2 対面				

別紙2：収支報告書

団体名：ぶんきょう多文化ねっと

収入 796,209 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	796,000 円	
団体補填分	209	
	円	

支出 796,209 円

費目	予算額	積算根拠
講師謝礼	130,000 円	A-1 日本文化&日本語交流会①(木版画うちわ)@30,000×2人×1回 日本文化&日本語交流会②(和菓子)@20,000×1人×1回 B-1 外国人との交流・支援のための研修会 @25,000×2回 *研修会 予定4回⇒ 2回実施に変更
コーディネート謝金	171,000 円	2024年度 Bチャレ年間企画コーディネート @5,000×5人 A-1 日本文化&日本語交流会① @5,000×4人 A-1 日本文化&日本語交流会② @5,000×4人 A-1 日本文化&日本語交流会③ @5,000×4人 A-2 B-NICEプログラムコーディネート @30,000×1人 B-1(9/2) セミナー企画 @5,000×4人+8,000(主担当) B-1(10/9) セミナー企画 @5,000×4人+8,000(主担当)
地域交流会実施委託	50,000 円	A-3 目白台寮と地域住民との交流フェスタ 開催業務委託 委託先:東大国際寮フェスティバル 企画委員会 @50,000×1回
文化体験代補助	118,000 円	A-1 日本文化を知る&日本語交流会①(木版画うちわ) @2,000×44人 A-1 日本文化を知る&日本語交流会②(和菓子) @1,000×30人
会場費	0 円	それぞれの事業の会場について 区の共催や企業(シード(株)) の協力により無料で使用させていただいたため支出なし

交流会茶菓費	45,265 円	A-1 日本文化を知る＆日本語交流会② 茶道抹茶材料等 4,455 A-2 B-NICE 交流報告会 菓子飲み物 14,410 *シビックセンター内会議室は飲食禁止継続のため 提供をみあわせた交流会があった。
会議茶菓費	98 円	B-1 研修会(講師飲み物) @98×1 その他は、ストックのあった飲料を提供した *シビックセンター内会議室は飲食禁止継続のため 提供をみあわせた交流会があった。
会議費	23,375 円	幹事会、打ち合わせ会のリモート実施用ZOOM契約費用 23,375(年間契約)
消耗品費	33,796 円	事業実施用の文具、消耗品、コピー用紙、ファイル等
郵送・運搬費	6,415 円	資料発送 宅急便発送など
書籍費	0 円	2024年度は 日本語教室活動の書籍の置き場所の課題が残り、新規購入を見合わせたため 支出なし
印刷費	12,101 円	イベント用大型コピー【目白台夏祭り】 イベント配布資料【目白台夏祭り・木版画体験】 広報用ちらし印刷【A-1①②③、A-2 A-3 B-1セミナー企画リーフレット印刷【A-2】
事務謝金	62,000 円	庶務・準備事務に係る謝金 A-1 日本文化＆日本語交流会③ @3,000×4人 A-2 B-NICEプログラム事務 @5,000×2人 A-3目白台国際夏祭り企画 庶務事務 @5,000×2人 B-2 日本語ボランティア教室体験調整事務 @5,000×6人
スタッフ交通費	63,000 円	1人@1,000 63人(通算) 分 明細別紙参照
諸雑費	12,159 円	ボランティア保険加入 A-1 日本文化＆日本語交流会①(木版画うちわ)@33×50人 + 振込料 A-3 目白台寮フェスタ @33×200人 + 振込料 A-1 日本文化＆日本語交流会③(交流忘年会)@33×100人 + 振込料
返金	69,000 円	

★執行残額発生の主たる理由

- ①研修会 予定4回⇒2回実施に変更
- ②区保有施設における会議・交流会等で飲食提供禁止のため 茶菓の提供を見合わせたり方法変更した。
- ③日本語支援環境整備を 次年度以降に変更したため、書籍費が発生しなかった